

福山医療生協組合員活動ニュース

NO. 10

2021年11月12日

発行: 福山医療生協 組織部

秋の自治体キャラバン（福山市・府中市・神石高原町）
国の制度を活用し、国保・介護・後期医療保険の減免を求める



福山市との懇談（写真左）：渡辺年金保険課長、赤木市民生活課課長、児玉保険年金課主幹、小森市民生活課主幹が対応。

（写真右）赤木市民生活課長に中藤さんが要望書を手渡しました。



福山市議会:表議事調査課長が対応

11月4日（木）国民大運動実行委員会として、秋の自治体キャラバンに取り組みました。

要請団は、コロナ禍のため少人数でとのことで、3名が参加しました。

西谷（年金者組合）中藤（福山地区労）花岡（福山医療生協）、府中市のみ岡（府中民商）、岡田市議に参加をお願いしました。

要請項目

① 国保税、後期高齢者保険料、介護保険料の減免実施を求める。

※ 6月2日に厚労省から出された事務連絡「新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した被保険者等に関する国民健康保険得よう（税）の減免について」に沿って、周知と減免を求めました。

② 子どもの医療費助成制度の拡充を求める。



府中市：追林政策企画課主任主事が対応。岡府中民商事務局長（右）が要望書を提出しました。



神石高原町：松井保健福祉課課長、池田政策企画課課長が対応

神石高原町との懇談：新型コロナウイルス感染は、全体で10人。尾道保健所に連絡した。

ワクチン接種率は、全体で85%を超えている。64歳～16歳は、80%以上。15歳～12歳は、60%以上。

町立病院では、PCR検査のノウハウがない。感染拡大に対する備えとして、訓練を行う。

※ 広島県は子どもの医療費助成は「国のやること」として、県としてはやる気がありません。

③ 国の責任による30人以下学級をめざした少人数学級の更なる前進を求める。

※ 3月31日の公立義務教育諸学校の学級編成・・・(義務標準法)の一部を改正、小学校全学年での35人学級の実現に道を開きました。

④ 最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める。

※ 最低賃金 時給1,500円を目指すと同時に、中小企業の支援を合わせて求めました。笠岡市のハローワークの方の話では、「広島県の最低賃金は899円で、岡山県笠岡市は862円です。笠岡で働くより、福山市に働きに来る方を選ぶ」とのこと。地域経済を考えると、全国一律最低賃金制度にすべき。

福山市社会保障推進協議会が、11月4日、福山市長に「2022年度福山市社会保障分野予算策定にあたっての要望書」を提出！



左：西谷会長が、岩木福祉部長に要望書を手渡しました。右は：花岡事務局長

福山市社保協が、11月4日、福山市の来年度予算編成に向けて社会保障の改善を求める要望書を市長に提出しました。コロナ禍の中自民・公明政権は、高齢者の医療費2倍化や介護保険の補足給付の対象縮小など、次々と社会保障制度を改悪しました。国民健康保険財政への国の負担割合も大きく減らしたままです。花岡事務局長は「制度の改悪に対し、反対の声を国にあげてほしい。高すぎる国保税を引き下げのために、国庫負担を増やすことも要望してほしい」と求めました。西木福祉部長は「持続可能な制度とするためだが、

困っている人もいると思う」との認識を示しました。子育て世帯の3割超が国保税を払っていない育て世帯の3割超が保険税を払えずに滞納しているなど、市民の生活が持続できない状態になっています。命と暮らしを守るために、国に制度の改善を求めるとともに市として市民の負担軽減に最大限の努力をすべきです。